**２０２２年度　全国盲ろう児教育・支援協会　事業報告書**

当協会は２０１９年４月に設立して以来、社会福祉法人全国盲ろう者協会と密接に連携して、文部科学省などの関係方面に対し、わが国における盲ろう教育の推進を強く訴えてきました。その結果、２０２１年度において、文部科学省の委託研究予算が再計上され（２０２０年度は、コロナ禍のため中止）、当協会がこの研究事業(「学齢盲ろう児の学習と教育の内容と方法が卒後の盲ろう児の生活に与える影響に関する研究」)を受託して研究を進めることができましたが、誠に遺憾ながら、この研究事業は単年度で終了し、２０２２年度文部科学省予算には計上されませんでした。(２０２３年度予算への計上を要望して、実現)

　また、この文部科学省の予算とは別に、当協会は、２０２０年度において、盲ろう児とその家族に対する訪問相談や盲ろう児のキャンプなどの支援事業の実施に向けて、ファーストリテイリング財団から多額の助成金を得ることができたのですが、盲ろう児や家族への支援には、接触や接近が欠かせないことや、万一、盲ろう児が新型コロナウイルスに感染した場合の隔離や入院治療の困難性などを考慮して、２０２０年度及び２０２１年度に当協会が計画していた支援事業については、全面的に「凍結」せざるを得ませんでした。しかしながら、この助成金については、ファーストリテイリング財団のご好意により、２０２２年度まで繰り越すことが認められ、当協会としては、 事業内容に一定の見直しを行った上で、具体的な盲ろう児支援事業を展開することができました。２０２２年度における具体的な事業の実施内容は、次のとおりです。

**Ⅰ　文部科学省委託事業**

　　盲ろう教育に関する調査・研究の推進は大変重要ですが、２０２２年度文部科学省予算においては、このような研究費の予算は計上されませんでした。そこで、当協会としては２０２１年度に実施した委託研究事業の成果の普及・活用に努めるとともに、文部科学省に対して盲ろう教育に関する委託研究費の予算化を強く要望し、文部科学省特別支援教育課長をはじめとする関係者との複数のお話合いや、必要と考えられる調査研究事業についての詳細な提案書の提出などを経て、２０２３年度文部科学省予算において「盲ろう児に対する指導の在り方に関する調査研究」が予算化されるに至りました。

**Ⅱ　その他の事業(ファーストリテイリング財団助成事業)**

**１　盲ろう教育に関する図書の出版記念セミナーの開催**

　　米国パーキンス盲学校が出版した盲ろう教育のテキスト 「Ｒｅｍａｒｋａｂｉｅ　Ｃｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎｓ」 を日本語に訳した「盲ろう児コミュニケーション教育・支援ガイド」が、２０２１年１２月に当協会の全面的な協力により出版されたことを踏まえ、本書の内容を盲ろう児の家族や教育関係者などに広く知っていただき、わが国における今後の盲ろう教育推進の一助となるよう、出版記念セミナーをオンラインで開催しました。当日は、盲ろう児のご家族や盲ろう児に関わっている特別支援学校の教員などが多数参加され、原著者である米国パーキンス盲学校の教員の皆様の講演や質疑などとあわせて、当協会が文部科学省の委託を受けて２０２１年度に実施した盲ろう教育に関する調査研究の報告も行いました。

・開催日時：２０２２年６月２６日（日）９：００～１１：３０

・開催方法：オンライン開催（パーキンス盲学校関係者は米国から参加）

・参加者：５３名

・講演者

バーバラ・マイルズ氏（パーキンス盲学校　教員）

マリアンヌ・リジオ氏（パーキンス盲学校　教員）

岡本明氏（筑波技術大学　名誉教授、当協会監事、翻訳者）

菅井裕行氏（宮城教育大学大学院　教授）

**２　盲ろう児とその家族への訪問相談の実施**

　　家族会等での活動経験の深い盲ろう児の家族や盲ろう教育に経験のある教員などを「外部相談員」として活用し、当協会の相談担当職員とともに、就学相談など盲ろう児の教育にかかわる問題を中心として、盲ろう児とその家族への訪問相談を行いました。

・訪問日時：２０２２年８月２７日（土）

・訪問場所：兵庫盲ろう者支援センター（神戸市）

・対象盲ろう児：０歳、大阪在住

※ふうわ関西ランチ会にも参加。参加盲ろう児：８家族

**３　触覚のオープンデザインプロジェクトの実施**

触覚により伝わるものは、あらゆる人々に等しく届くことを踏まえ、共生社会の実現に向けて、現に盲ろう児に関わっている研究者、技術者、デザイナーなどの協力を得て、先天性の盲ろう児者の様々な触覚から得られる感覚を、盲ろう当事者も参加して分析・言語化し、盲ろう児者の能力開発や、便利で楽しめる新しいデザイン、製品の開発などを進めました。また、盲ろう児が参加するワークショップを開催して、盲ろう児が楽しめる空間の中で、その触覚の世界を探求するとともに、このようなワークショップの開催を通して、盲ろう児の新たな支援人材の開発を進めました。

　・触覚のリサーチ事業

　　様々な環境の中で触覚から得られる感覚をリサーチし、ツールキットなどの開発につなげていきまました。

　・ツールキットなどの開発事業

　　自然環境の触覚から新しい地図を作るキット、触覚を利用したコミュニケーションツール、ゲームや玩具などの開発を行いました。

　・ワークショップの開催事業

　　10人程度の盲ろう児が参加する「森に触れる」ワークショップや「海に触れる」ワークショップを開催し、盲ろう児の触覚の世界を広げるとともに、このような活動を通して、新たな支援人材の開発を進めました。

各ワークショップなどの開催状況は次のとおりです。

【海のワークショップ】

・開催日程：２０２２年８月２１日（日）

・場所：デザイン・クリエイティブセンター神戸　KIITO（神戸市）

・参加者：盲ろう児１家族、その他２家族

・講師：三橋弘宗先生（兵庫県立大学講師）

・内容：「海」をテーマに開催。魚を直に触り、立体的な魚拓を作ることで、触り心地の記録が後日の振り返り（思い出）として残るのではないかという趣旨で行われた。

【山里のワークショップ】

・開催日程：２０２２年１１月１２日（土）～１３日（日）　１泊２日

・開催場所：上郷・森の家（横浜市）

・参加者：１４家族　約４０名（支援者等を含む）

・内容：「山里」をテーマに開催。森林を探索し、草や木々・木の実などを集めたり、手触りが違う細長い紙をレールに見立てて台紙に貼り、立体的な感触を楽しむ「たっちコースター」を作る取り組みを行った。その他、野外でバーベキューも楽しんだ。

【京都リサーチ】

・開催日程：２０２３年３月１６日（木）～１９日（日）

・場所：京都円山公園（京都市）

・体験者人数：２００名以上

・内容：円山公園にてKYOTO FRAGMENT ART PROJECTが開催され、先天性盲ろう児を含むプロジェクトチームが出展した。「触覚サイン」をテーマに手すりを作成し、手すりの始まりと終わりにサインを付け、手すりがどのような形をしているのか手でたどったり、サインをくみ取りその後どのような動きとなるのか予想しながら体験してもらう取り組みを行った。